



▲ゲストランナーの松山進次郎さん

能登半島地震の被災地支援に向けて、家屋被害認定調査や上水道応急復旧などを行うため職員を派遣しました。播磨町としても、被災地の方、一人ひとりに新しい希望をお届けすることで、能登にお住いの皆様が一日も早くいつもの生活に戻られますよう、復興に尽力してまいります。

▶1月28日に、第46回播磨町ロードレース大会が開催されました。6年ぶりに新島を走るコースが復活しました。道路の通行止めにご協力いただきました、新島の企業をはじめ近隣住民の方々にあらためて感謝申し上げます。ランナーの皆様も、潮風を体いっぱいを感じながら、日頃の健脚を存分に発揮していただいたと思います。ゲストランナーの元阪神タイガース松山進次郎さんも、素晴らしいお人柄で、時間の許す限り最後までサインや写真撮影に応じられていました。

▶播磨町図書館を使った調べる学習コンクールの表彰式がありました。たくさんの応募の中から、特に優秀な作品が表彰されました。小学生の部も大人の部も力作が多く、皆様の鋭い視点に驚かされました。インターネットでの検索が便利な時代、紙をめくって調べることの素晴らしさを体験していただけたと思います。

▶3月23日に役場駐車場朝市があります。地元の海産物、農作物の販売や、町内飲食店のブース出展がありますので、春の陽気のもと、皆様ぜひお越しください。

▶令和5年度の一般不妊治療費・不育症治療費助成申請の締め切りが3月29日までとなっております。ご夫婦を対象としたペア治療費も播磨町独自で補助しています。申請忘れのないようにしてください。

▶最後に、3月は自殺対策強化月間です。命を大切にしてください。いつでもどこでもそばにいるから、ひとりで悩まないで。

播磨町長 佐伯 謙作



あんぜん・あんしん暮らしのメモ帳

播磨町消費生活センター ☎079-435-1999

ご相談は…お電話ご来訪どちらでもご相談ください。ご来訪の場合、産業環境課窓口にお声がけください。

▶相談日時 ※専門の相談員が相談に応じます。
毎週月・火・木曜日(祝日、年末年始を除く)
9時~12時 13時~16時

「フリマアプリ」でトラブル! 受取評価は商品をよく確認してから



事例
フリマアプリでブランドバックを購入した。商品が届き、よく確認をしないで受取評価をしたが、その後に偽物だとわかった。フリマアプリの運営会社に苦情を伝えると「受取評価をしたら、お金は戻らない」と言われた。

ひまわり助言

- フリマサービスは個人間の取引です。トラブルが起きた場合は、基本的には当事者間で解決を求められる事を理解しましょう。
- 商品到着後、購入者が受取評価をする。出品者に代金が支払われます。
- 評価してサービス上の取引が完了してしまつた後にトラブルが起きても、相手と連絡が取れない事や運営会社のサポートが受けられない事があります。必ず商品の状態をよく確認してから受取評価をしてください。
- 困った時は、お早めに播磨町消費生活センターにご相談ください。



楽屋裏

もうすぐひなまつり。私はこの時期、いろいろなところで展示されるひな人形を見に行くことを楽しんでます。まちぐるみで、商店街で、寺社で、ミュージアムで、洋館などの建築文化財内で開催するイベントを探すのです。

今年、播磨町中央公民館でも、住民が持ち寄ったひな人形が展示されるそうです。

2月21日(水)~3月5日(火)
中央公民館1階ロビー。詳しくは中央公民館にお問い合わせください。(宮)

まちゃんぽすだより

播磨西小学校 1年生

小学校初めての音楽会

紅葉が見ごろを迎えた11月中旬、播磨西小学校では音楽会が行われました。コロナ禍で、従来の音楽会が開催できない期間が長くありました。しかし、どの学年の児童たちも、音楽を通して自分たちの思いを伝えられるように、練習を積み重ねてきました。小学校生活初めての音楽会となる1年生も、初めて触れる楽器に悪戦苦闘しながらも精一杯練習に取り組みました。



▲「さんぽ」を合奏



▲「にじのむこうに」を合唱

迎えた本番当日、1年生は歌「にじのむこうに」、合奏「さんぽ」を披露しました。図工の時間に作成したお揃いのオリジナルTシャツを着用しての演奏です。みんなで心を合わせて表現する楽しさを、1年生らしい元気いっぱいの歌と合奏で、見ている人たちに伝えることができたと思います。本番を終えた子どもたちは、「緊張したけど楽しかった!」「来年の音楽会も楽しみ!」と振り返っていました。

日々の練習の成果を出し切り、達成感に満ちた子どもたちの笑顔が印象的な音楽会でした。

地域の防災の取り組み



▲誰が見てもわかる備品設置



▲誰からでもわかる防災倉庫

12月3日、播磨町ではじめてとなる総合防災訓練が開催されました。防災の取り組みは町全体の大きな取り組みから個人や家庭でできる取り組みまで様々です。今回は播磨町の自治会で取り組まれている防災についていくつかご紹介します。

播磨町の各自治会には防災倉庫が設置されています。ここには災害時などに使用できる備品などがおいてあります。例えば石ヶ池自治会では、3カ月に一度防災倉庫の中の備品をすべて出し使用可能か、賞味期限切れがないかなどの確認を毎回異なる住民で実施しています。異なる住民で実施することで、誰でも倉庫の中を知っている状態を目指されています。また、二子自治会では、2年に1度全住民名簿を作成し、備えられています。さらに最近では防災倉庫の見直しをされました。外観も防災倉庫としてわかりやすい表示とし、内部も備蓄は賞味期限ごとに、すぐに使うものは手前に置くなど様々な工夫がなされています。ぜひお住まいの自治会にはどんな防災の取り組みがあるか調べてみてください。それを知るだけでも立派な防災活動になります。

【まちづくりアドバイザーとは】 播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。

まちづくりアドバイザーがお届けする
まちアド通信
協働推進課住民協働係
☎079-435-2364